
椿?の成長記録。

恭弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

椿？の成長記録。

【Nコード】

N2394T

【作者名】

恭弥

【あらすじ】

俺、菊田龍太郎は楚歌学園高校に通う極普通の1年生。・・・だったのに。幼馴染は妙にハイテンションだし陸上部は厳しいし・・・そして一番は。猫耳少女の、あいつに会ったせいだ。おかげで俺の人生は、めっちゃめっちゃだよ、全く。

出会い。

俺の名前は菊田龍太郎。楚歌学園高等部の1年生だ。

ちなみに頭はそこまで良くもないし悪くもない。運動も好きなような嫌いな様な……。

つまり簡潔に言うとな微妙な奴だつてことだ。

今日もそんな俺は、楚歌学園に通う。

鞆を背負う様にもち、片手はポケットに入れて歩く。そして「ふあ

〜あ」と大欠伸。

そんな俺の肩をポンと叩いてきたのは、幼馴染の愛梨華だった。

愛梨華は色白でポニーテール。どちらかというところ積極的なタイプだ。

「よお、愛梨華。」

「おはよう、龍太郎。今日はいつもより早いね。」

ああ、そうだな。と頷く。と言つてももう7時50分だが。この学校の最終登校時間は8時10分。

いつもは8時5分ごろかチャイム着席にも至らない俺だからな、今はは。

「ところで、龍太郎は部活決めた？」

「ん〜そうだな。俺は今のところ陸上部かな？愛梨華は？」

「わたし？ほほ〜お。よくぞ聞いてくれました！演劇部で〜すよお！」

テンション高えな、相変わらず。愛梨華はVサインして答えた。

「でねでね、演劇部今度白雪姫の劇やるの！」

「ふうん、凄いいじゃん。」

「そうなの！だからガンバろ〜……って。ヤバい、遅刻しちゃう！龍太郎！」

「俺は後から行くから先行けよ。」

そう俺は言つて踵をして遠ざかる愛梨華の背中を見送った。そんな時だった。

出会い。(後書き)

どうも、作者の恭弥です。ライトノベル風に書きます。誤字脱字、あるかもしれませんが、そこはどうか大目に見て下さい。宜しくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2394t/>

椿?の成長記録。

2011年10月9日02時42分発行